平成22年2月3日

元気再生応援隊事業　～柳井町商店街と学生の連携～

松山大学　経済学部
鈴木ゼミナール　宮田　潤

概要

柳井町商店街と学生の連携は、地域のニーズから自然に生まれてきました。今日、学生にとって商店街は、身近に感じられる空間とは言いがたく、そのことがさらに商店街を衰退させる原因になっていると思います。私たちが柳井町で活動することは、自らの就業体験や青春時代の想い出づくりの場となるとともに、日本の衰退しつつある商店街の課題と向き合えるなど様々な気づきが得られます。そして同時に、若い力が商店街に集まることで、その地域で暮らす人たちに少しずつ影響をもたらし、そこで様々な人が調和することで協働が生まれ、賑わいが生まれてくるのです。まずは、学生にとって商店街が身近に感じられる遊び場になってほしいと思います。この活動はまだ、第一歩を踏み出したばかりです。どうしてこの活動が始まったのか、どのような活動を行ってきたのか、そして具体的な効果とは言い難いですが、柳井町で小さな芽が育っていることを紹介していきます。

目次

１、柳井町商店街と学生を繋いでくれた「Steady Crew」

２、柳井町商店街の活動

３、一回目より二回目、二回目より三回目。少しずつ地域の人たちと連携して

４、メディアの役割とその効果

５、地域の見えない変化、でも着実に変化している内面

６、学生の学びとしての場、商店街

７、参考資料等

１、柳井町商店街と学生を繋いでくれた「Steady Crew」

商店街再生 若者タッグ

松山 柳井町 格安居酒屋 学生ら開店

空洞化が進む松山市柳井町一丁目の柳井町商店街を活性化しようと、松山大生らが地元の若者グループとタイアップ、空き店舗を活用した商店市施設内に地産地消の居酒屋「UP・UP」を8日夜オープンさせた。

経営するのは松山大生や愛媛大生が設立した五友の会（宮田潤代表）メンバー10人。共同経営する若者グループ「フレッシュディークルー」（渡部勝平代表、5人）に設定した。

が2007年、同商店街の空き店舗に産直市を開店。08年には隣接店舗に総菜店を相次ぎ開店。来客が定着したことから、新たな誘客の試みとして居酒屋を企画した。

店のスペースは約21平方メートルと小さいながら、同市産市の新鮮な生や愛媛大生が設立した五友の会（宮田潤代表）メンバー10人。共同経営する若者グループ「フレッシュディークルー」（渡部勝平代表、5人）に設定した。

営業時間は5時間を予定。午後7～11時。火、水曜日は宮田代表が店長を務め、学生らが調理や接客を5人体制で。1日1万～2万円の売り上げを目標にしている。

オープン初日には近所の人らが訪れ、中山町産のタマネギやキャベツを煮込んだ煮しめ、焼きそばなどを楽しんだ。仕事帰りに立ち寄ったという20代男性は「野菜がおいしい」と地域産への関心の高まりを利用。

宮田代表(29)は「生ビール自身が経営すること、若者を持ってもらえたらうれしい」と期待を寄せている。

地産地消の居酒屋UP・UPの店長を務める松山大生の宮田さん＝8日、松山市柳井町一丁目

この新聞記事は、平成 21 年 11 月 7 日の愛媛新聞の記事です。私たちの商店街での活動は、ここから始まりました。「学生店長プロジェクト」

Steady Crew（注１）は、これまで柳井町の地域活性化を目的にその商店街で様々なイベントを行ったり、また自ら商店街のシャッターを開けて商いをするなど、精力的に活動しいる若者の団体です。しかし、最初から若者かつばか者が、寂れつつある商店街に入っていける基盤があったわけではなく、イベントや自らのお店を出店するまでには、様々な苦労があったそうです。空き店舗を貸してもらえる条件が整った時には、一年が経過していました。

Steady Crew の活動なくして、私たちの活動は語れません。Steady Crew は、時間をかけて商店街という土を耕し、腐葉土を加え、いつ種をまいても立派な芽が出る環境を整備していったのです。つまり、地域のコミュニケーションを大切にしながら柳井町に少しずつ根をはっていき、商店街に新しい風（学生が活動する）を入れることができる地盤を着実に築き上げていきました。

Steady Crew の代表「渡部勝平」さんと私の出会いは、柳井町商店街の端にある延命地蔵尊でした。その時から「若者が寂れつつある柳井町商店街をとにかく盛り上げようと頑張っている」という事実をしり、興味を持ち始めました。そして、松山大学の学園祭で地域の情報発信をしようと五友の会（注２）と Steady Crew の関係が始まりました。

最初は、五友の会のメンバーを柳井町商店街に連れてくることから、始まりました。学園祭のミーティングが終わっては柳井町商店街に出かけていって、Steady Crew が経営するお惣菜屋のコロッケやカキ氷をみんなでよく食べたことを覚えています。　また、代表である私自身も Steady Crew のメンバーと信頼関係を築くために、何かできることはないかとやることがなくてもお店に出かけて行っては、夜のご飯をご馳走になったり、お茶碗洗いを手伝ったりとコミュニケーションをとることを心がけました。

渡部さんから「学園祭で柳井町の情報発信をするなら、自分たちが地に足をつけて（柳井町の人になる）からそこを元に情報発信しなよ」とお店の運営を進めてくれたのは、10

月の上旬です。メニュー・料金設定・発注もすべてを任せてもらえることになり、学生店長のために五友の会と Steady Crew の交流会を 10 月 28 日に行い、11 月 10 日から学生が運営するお店として学生店長プロジェクトが始まりました。学生が運営する日は火曜日と水曜日、私と渡部さんが初めてあってから三ヶ月目のことでした。

注１：Steady Crew（代表・渡部　勝平　　拠点・松山市柳井町）
　　地元商店街の活性化の為、Ｈ１９年１２月に結成。Ｈ２１年１２月に法人化。
注２：五友の会
　　松山大学の公認サークル。平成 21 年 6 月に結成

２、柳井町商店街で行ってきた活動

私たちは、主に柳井町商店街でお店を運営するのと平行し、月に一回のペースでイベントを行ってきました。

お店を運営することは、商店街の人たちと一緒に活動することであり、また、地域の人たちとコミュニケーションをとる場、自分たちの活動の情報発信の場としての役割も担っていました。

平成 21 年 11 月 21 日　愛媛新聞

しかし、それよりも大きな役割は、少ないながらも自主財源を確保するという機能を果たしていたということです。柳井町商店街の活動の中に、お店の運営が入っていたことで、学生の活動をより自立させ、持続させるものになりました。

そんな学生と地域の交わりをさらに加速させたのが、月に一度行う柳井町商店街のイベントでした。イベントを行うことでよく耳にするのは、「花火を上げる」という表現です。何の経済効果も生まず、一時だけの賑わいづくりいう意味です。しかし、私たちが始めて行ったイベントは、おそらく一時すら賑わいも生まれなかったと思います。私たちがイベントで作り出したものは、地域の連携とコミュニケーションと想い出創出の場でした。初めて行ったイベント「柳井町商店街応援企画第一弾　柳井町応援ジャズライブ」では、商店街の身内の人が集まり（商店街関係者以外の人は５名くらい）、あとは数名の学生が演奏して楽しんでいってくれました。しかしその中で商店街の人に「本物のイベントだったね」と言われたことはとてもうれしかったですし、学生が楽しそうに演奏して想い出を作っていくことが印象的でした。今から振り返ると、あの一回目のイベントは、地域の住民が学生と連携して地域主体で商店街の賑わいを作り出そうと団結した決起会だったのです。イ

ベントはその当日だけのものではなく、商店街を一軒一軒回る挨拶回りもイベントの一つです。今でも必ずイベントを行う際には挨拶回りを欠かしません。イベントは私たちにとって、コミュニケーションを生む機会、商店街の想い出づくりの機会、なのです。

３、一回目より二回目、二回目より三回目。少しずつ地域の人たちと連携して

柳井町商店街の活動の一つであるイベントは、一回目より二回目、二回目より三回目とだんだん規模が大きくなってきました。それは、継続と連携の効果だと思います。二回目に行った「柳井町応援企画第二弾、もっと集まれ合同ジャズライブ」は、参加学生が 30 名を超え、商店街に立ち寄った人も 40 名を超えました。イベント参加サークルが多くなることで学生自身にも刺激が生まれ、相乗効果にも繋がりました。このときはまだ、学生の規模が大きくなっただけですが、商店街の挨拶回りの効果もあってか、少しずつ学生が頑張って活動しているということが周りに認知されるようになってきました。

元気スイング商店街

松山・柳井町でライブイベント

松山・愛媛大生、若手と企画

平成 21 年 12 月 7 日　朝日新聞

このイベントで重要なことは、イベントをただ行ったというだけでなく、自分たちのイベント費用もなるべくその中から稼ぐということを心がけている点です。このとき、企画した団体の五友の会は、焼き芋とおでんの販売を行いました。決して大した売り上げではないものの、継続する上で自らが稼ぐということを大切にしています。

商店街を応援

学生ら落語寄席

松山・柳井町

平成 22 年 1 月 10 日　朝日新聞

年が明けて行った三回目にあたるイベント「柳井町学生年明け祭り」は、新たな学生サークルが加わっただけでなく、柳井町の子どもや親御さんまでがイベントに加わり、さらに柳井町の地域以外の方も巻き込んでイベントが実施できたことに大きな意義があると思います。当初はイベントが、学生の商店街の想い出づくりの場、自分たちの情報発信の場としての役割が大きかったのに、三回目では地域の人にとっても想い出作りの場、そして子どもにとって商店街が遊び場に変わってきました。商店街の人が、「紅白幕を借りてはどうか？」「今度はお箏の生演奏をお月見の季節に聞きたいわ」という声がちらほらと聞こえるようになったのもこのころでした。

平成２２年１月１５日愛媛新聞

４回目のイベントは、ちょっと変わったイベントで「議員と学生の意見交換会」というものでした。普段あまり訪れそうにない国会議員が、寂れている商店街に足を運び、そこで学生とざっくばらんに議論をするというイベントでした。柳井町商店街とは関係なく、一見何の変哲もないイベントのように思えますが、そこにはこれまで積み重ねた地域の連携の賜物がありました。それを感じたのは、地域調査のためのアンケート（注）を行ったときです。商店街の活動で非協力的な人たちが少しずつ協力してくれるようになったのです。アンケートは地域の自主的な協力体制がないとなかなか実現することはできません。ましてや、本音が書いていないアンケートは、その価値すら危ぶまれます。４回目のイベントを通して実感したのは、少しずつ地域の連携が生まれてきているということでした。

注３：　７、参考資料等を参照「柳井町地域調査アンケート」

４、メディアの役割と効果

これまで柳井町商店街の活動が円滑に進み、かつ様々な変化が生まれた要因には、メディアが大きく寄与したことは言うまでもありません。これまでの活動は、新聞・テレビ・タウン情報誌・ラジオなどで必ず取り上げられてきました。メディアという媒体は、私たちの単なる情報発信だけでなく、地元の人やそれに関わる学生のやる気にもつながっているのです。「この間テレビに映っていたね～」、「たまたまメディアにでてしまったわぁ～」と恥ずかしながら喜んでいる住民の人たちや、「学生時代に柳井町商店街で想い出ができました」、「楽しかったです。また柳井町のイベントに呼んでください」といった各部長さんからの声が生まれたのもメディアが寄与したと言えるでしょう。

これまでの活動でどんな経済効果が生まれたのか、ということを具体的な数値で表すことはできません。おそらく数年、数十年続けてやっと現れてくるものだからです。しかし、地域の中で少しずつ何か変化が起きている、ということを現場に足を運ぶという以外の方法で察するとするならば、これまでのテレビや新聞に取り上げられた情報をたどっていく方法があります。メディアは、地域で起きた事を客観的な視点で捉えてそれを蓄積していき、内面（人の心の変化）の効果と外面（数値的に見てわかる）の効果の乖離を防ごうとする機能を持っていると思います。それが地域活性化における重要なメディアの役割だと思います。

５、地域の見えない変化、でも確実に変化している内面

学生が活動していて、地域にどんな変化をもたらしたのか、というものを数値化することはとても難しいです。しかし、柳井町商店街ではこれから地域が連携して盛り上がっていこうとする小さな芽がたくさん育ってきています。

その一つ目は、イベントを通じて住民の人が柳井町の活動に注目し始めたことです。イベントの実行に対して企画者ではない人たちから様々な提案が出るようになったり、少しずつではあるものの協力してくれるようになりました。

二つ目は、イベントに子どもが参加できるような仕組みを導入することで、子ども会との交流が生まれ始めたことです。そのことによって、はじめは子ども会の活動に消極的だった父兄の方から「今年は（平成 21 年）最後に若者たちと出会えてよい一年でした。旦那にハードルが高すぎいといわれてしまったけど、やってみたい企画を考えつきました。それぞれの年齢と環境で助け合えばできると思います。来年もよろしくお願いします！」というお返事をいただくこともありました。

三つ目は、柳井町の地域の歌である番長音頭の復元を切に願うお年寄りの方がいて、その歌を復元する取り組みが始まったことです。7 月になると柳井町のお年寄りの方が、小学校に盆踊りの指導をしに行きます。そこで柳井町では、毎年受け継がれる歌がなかったのです。子どもからお年寄りが一緒に歌って踊れる歌があり、それが受け継がれていくことは、地域にとってとても大切なことです。「ずっと歌詞だけのこっていたので、私たちの歌ができたらとってもうれしいわ！」と生き生きした表情で語るお年寄りの笑顔が印象的でした。

６、学生の学びの場としての商店街

商店街は人が集まり、交わる空間です。そこでは、日々様々なコミュニケーションや、いろいろな形での人と人との連携、また、地域の課題に対しどうすればよいか、という議論が生まれます。その中で協働という作業から仲間という存在が構築されていくのです。それらは学生も同じです。商店街に自らが入っていくことで、コミュニケーションから自己表現力を身に付け、そして人と人との連携から、組織力・責任感を体感し、地域の課題と向き合うことで、創造力や課題解決能力を身に付けるのです。その過程で、学生が大切な人間関係であるや親友・恩師という関係を構築していくのです。柳井町商店街はまさに学びの場でした。どこの図書館を回って、どんな本を読みあさっても書いていないことがそこにはあります。柳井町商店街の活動をすることで、このことを実感することができたことが本当に良かったです。

７、参考資料等

Ａ　これまでの柳井町での活動

・平成２１年９月ごろからお店の手伝いに行くようになる。
・平成２１年１０月２８日：学生と SteadyCrew の交流会
・平成２１年１１月６日：毎日新聞の取材
・平成２１年１１月６日：朝日新聞の取材
・平成２１年１１月１０日：柳井町商店街
・平成２１年１１月１３日：イベントのための商店街挨拶回り
・平成２１年１１月１３日：FM 愛媛の取材
・平成２１年１１月１８日：柳井町応援イベント
・平成２１年１１月１８日：あいテレビの取材を受ける
・平成２１年１１月２７日：１２月のイベントのための挨拶回り
・平成２１年１２月６日：第二回柳井町応援イベント
・平成２１年１２月２１日：柳井町理事会
・平成２１年１２月２２日：柳井町婦人会
・平成２１年１２月２５日：商店街回り
：アンケート依頼
・平成２１年１２月２９日：柳井町一丁目の子ども会の打ち合わせ
・平成２２年　１月　８日：ＮＨＫにて「柳井町学生年明け祭り」の宣伝を行う
・平成２２年　１月　９日：「柳井町学生年明け祭り」
：　愛媛新聞・産経新聞・朝日新聞
南海放送の取材を受ける
・平成２２年１月１３日　：松山大学主催シンポジウム
「ソーシャルベンチャーを育てる
－地域活性化のための人材育成－」
にて柳井町商店街の活動報告を行う
：学生と国会議員の意見交換会
愛媛新聞・南海放送の取材を受ける

Ｂ、添付資料　柳井町地域調査アンケート
平成 22 年 1 月 13 日

松山大学　学生地域研究サークル
五友の会　代表　　宮田　潤

柳井町で暮らす住民の意識調査アンケート

１、　アンケートの目的

平成 22 年 1 月 13 日、柳井町商店街にて、民主党ながえ孝子氏と学生による意見交換会が行われることになりました。この機会は、柳井町で生活する地域住民の想いを伝えるチャンスでもあり、国の政策や方針、今の生活の中で感じていることなど「生の声」を把握することを目的にアンケートを実施しました。

２、　アンケートの概要

アンケート実施日　：　平成 21 年 12 月 25 日～平成 22 年 1 月 9 日
アンケートの対象　：　柳井町 1 丁目の商店街で商いをする人
　　また、一丁目で暮らす地域住民
サンプル数　　：　49 名　（男２２・女２７）

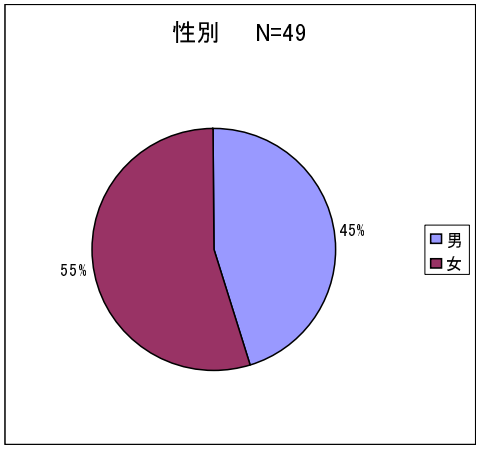
３、　アンケートの集計結果

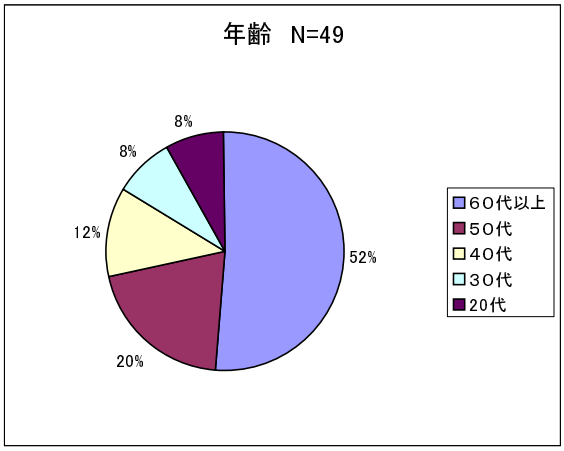
Ｑ１　性別

男　４５％
女　５５％

Q2　年齢

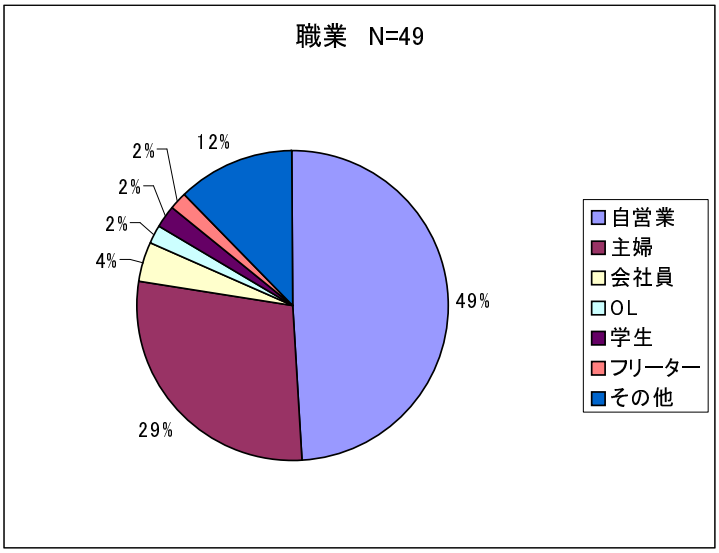
60 代以上　５２％
50 代　　２０％
40 代　　１２％
30 代　　８％
20 代　　８％





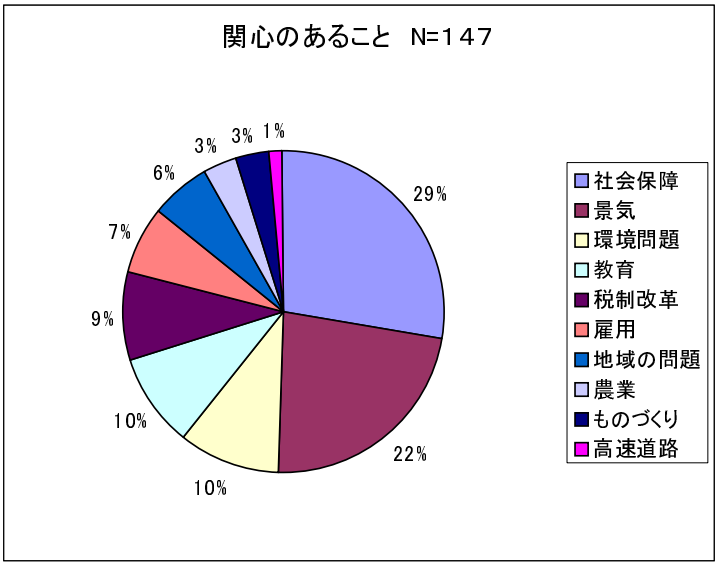
Q3　職業

自営業　　４９％
主婦　　２９％
社会人　　４％
OL　　２％
学生　　２％
フリーター　２％
その他　　１２％



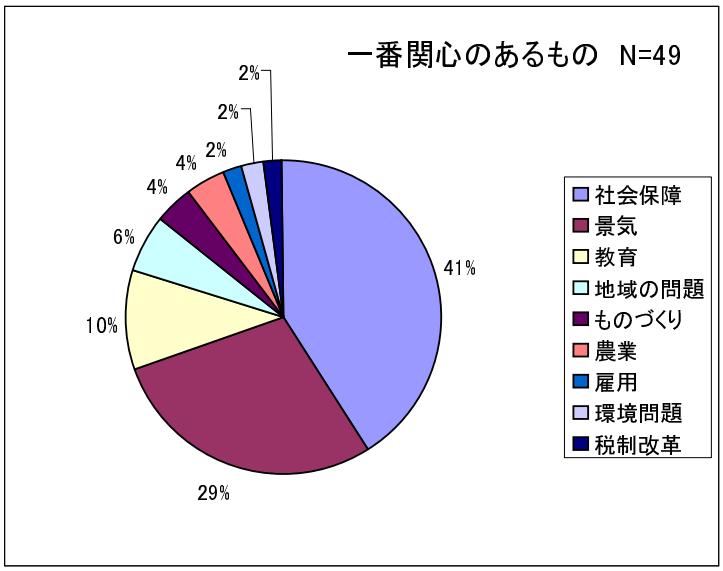
Q4　関心のあるもの

社会問題　　２９％
景気　　２２％
環境問題　　１０％
教育　　１０％
税制改革　　９％
雇用　　７％
地域の問題　　６％
農業　　３％
ものづくり　　３％
高速道路　　１％



Q5　もっとも関心のあるものと、それについての一言

社会保障	４１％
景気	２９％
教育	１０％
地域の問題	６％
ものづくり	４％
農業	４％
雇用	２％
環境問題	２％
税制改革	２％



「社会保障」

（提案）

・消費税を上げて確実な財源を確保した上で、介護・医療・教育等に支援していき国民の負担を減らしてほしいと思います。

・２１歳の子供がいますが、国民年金をかけても将来受け取れることができるか不安です。卒業後、就職してから支払ったので良いではないかと考えています。無事に就職できればの話ではありますが・・。

・国債の額が巨大になっているが、日本は大丈夫でしょうか？自分たちの負債を子供たちに押し付けているように思いもいます。高校生の授業料が無料になるのも疑問です。高校の義務教育化ということ？それより奨学金を充実すべきでは。

・一般年金生活者より生活保護者のほうが金が多いのは、年金をかけてきた人にとっては不公平ではないでしょうか。保護を受けずに一生懸命頑張っている人がいて、それに比べ保護を受けてのんびりしている人を見ると、議員さんの方の目線はどこに向いているのかと思います。政権が代わり、今こそこの問題を見直し考えてほしいと思う。

・仕事をしながらの介護は大変なので、入所できる施設等を充実してほしい！老老介護の人にも手助けを

・妊、産婦に対してもっと優しくなれば、出産する人が増えるのではないでしょうか・・・。健診の診療代の補助制度をもっと続けるなど。

・社会保障を企業からの拠出金に依存する体質は良くない。現在医療保険にしても企業年金にしてもできるだけ企業負担に頼ろうとしている。景気が悪化して企業の業績が悪化すると、たちまち社会保障にしわ寄せが来る。前政権の打ち出した年間 2200 億の社会保障費削減がそのいい例と思う。景気と社会保養を切り離すためには、消費税のアップもやむをいない選択だと思う。

・介護員が少ない問題・・介護職員個人に直接国からの支援をしてほしい。事業主に支援しても職員個人の給料は良くならないと聞いています。
消費税を上げて確実な財源を確保した上で、介護・医療・教育等に支援していき国民の負担を減らしてほしいと思います。

（声）

・将来の年金制度が保障されているか不安です。

・年金が少なく、老後が心配です。

・国民年金、満額で 6.6 万。これを 10 万ぐらいにあげてほしい。

・一人暮らしや老々介護が多くどこまで持ちこたえることができるか心配。

・誰もが安心して老後を迎えられるような社会保障制度の確立を望みます。

・老夫婦二人暮らしなので、これからの生活（特に体力的に衰えたとき）を考えると不安、老人施設も絶対的に不足していると聞くので・・・。

・今の保障で将来が不安

・今まで掛け金を払ってきたのだから、年金はある程度の額をいただけるようにしてもらいたいです。出ないと若い人たちは年金の掛け金を払う気にならないだろうし、年金制度は壊れてしまうのではありませんか？

「景気」

・現在の深刻な日本経済の景気を回復させるためには、個人の家計に各種の手当を支給するのではなく、産業界を立ち直らせる対策が必要である。そのために、大型公共工事を継続して実施すれば、セメント、鉄鋼、電気、機械等、多くの業界を刺激し、さらに雇用の増大、勤労所得の増加にもつながり、その結果消費の増大も促すこととなる。

・みんながもっと消費がしやすいような政策をしてほしい。

・持続する経済成長がすべての大前提である。経済活動が活発になるような政策を「素早く」お願いします

・専門店の生き残り問題

・景気が良くなるのを待ち望んでいます。

・苦しい。景気が良くなるようにしてほしい。

・現在の雇用財政の悪化は大きな社会不安となっている。政策としては、最優先に対応すべきであり、対策が遅れるとあらゆる分野に影響を与え、やがて社会システムの崩壊につながって行く恐れがある。環境問題も大事だが、年間 3 万人もの自殺者を出している背景に景気の悪化がある。また、アジア圏はすでに景気回復に向かっている中で日本だけが不景気を脱出できない現状は政治の責任だといえる。

「教育」

・私は子供がいますが、気になっているのは、教育問題です。この度民主党の圧力により、「竹島」が日本の領土という明記を学校の教科書から外したという点に大変怒りを感じています。民主党は日本という国を軽視しすぎではないでしょうか。アジア外交を軽視し、国内の問題に目を向けていなすぎです。このような学校教育にまで、政治的な、外交的な問題を持ち込んでくるような政党は異常だと思いますし、自分たちの子供がそのような状況で今後教育を受けていくと思うと心配です。ぜひとも教育と政治をちゃんと分けて考えてほしいです。

・すべてにおいて人の心が重要だと思う。っそのための教育（道徳）を数年・数十年という長いスパンで計画していくことが将来のためになると思う。

・指導者の育成・保育園などの施設整備・スポーツ施設の充実

「地域の問題」

・この柳井町は近くの銀天街はショッピングなどで土日は賑わっているのに、中の川とおりという大きな道を挟んだだけで、人通りがぐっと減ってしまいます。近所の人は、みな面白くて温かい人たちばかりです。もっとこの街を多くの人に知ってもらい、来ていただけるために、今後何に力を入れていったらよいのでしょうか。

・地域を元気にすることは、経済を活性化することでもある。愛媛そして松山が注目を集めるための効率的な対策、先駆的な政策を模索しなければいけないとひしひしと感じる。人的資源のレベルが 10 年・15 年前と比べると落ちてきていると感じる。対策を講じなければならない。

「ものづくり」

・第一次産業、地産商品、古古米対策のための商品開発についての制度の見直し

「農業」

・食料自給率を上げて、安全で栄養価の高いものが消費者に手に入る環境が当たり前になれば良いと思っています。

・家庭菜園に農地を購入できるようにしてほしい。農地法で小さな農地は購入できない。（自給自足！）

「雇用」

・雇用が一番大切だと思います。一人ひとりの収入が増えると、私たちの自営の収入も増えると思います。まずは収入源が大切です。

「環境」

・今のままで行けば、人だけが栄え、ほかの生物は遅かれ早かれ絶滅してしまう。温暖化や開発の影響はどうにもならない。トキやコウノトリ野生復帰しても何の意味もないと思う。

「財政改革」

・政権が変わり税金の面で基礎控除が変わり個人業者はとても大変です。子育を育てている人は優遇され、私たち子育ても終わり、あと何年で年金生活を向かえるものにとって厳しい世の中になりつつあります。税金の使い方、よくよく考えてほしいと思っております。

柳井町（商店街）で生活する住民は、年齢層が高く大半が高齢者です。そのために社会保障にいついて不安を抱える人が一番多いという結果になりました。しかし、高齢者の一人暮らしや、老々介護の問題は、いまや日本全国共通の問題でもあります。

働き手が減りつつある現状で、社会保障費の負担を次世代だけで埋め合わせることは困難な状況です。社会保障の充実と平行して、やりがいを感じながら生涯充実して働ける雇用を高齢者の間でどう作り出すか、が柳井町を軸に日本の将来を考える焦点になると思います。

５、　アンケート実施にあたって（感想）

地域でアンケートを取ることがいかに難しいかということが、身にしみて感じました。外の人が、いきなり地域には入っていって「アンケートのご協力よろしくお願いします」といったところで、協力してもらうのは難しいし、相手が本当の想いを伝えてれくれるとも限りません。地域に根付いて信頼関係を築く、それがとても大切だと分かりました。

首相が地域の信頼関係を築きながら国の政策を打ち出していくことは困難であり、「こんなに良い政策を打ち出しました、ご協力お願いします。」といったところで、押し付けの政策には限界があると思います。地域に近い、ながえさんのような議員が、どれだけ地域の人と一緒に信頼関係を築けるか、が地域から変わる日本の第一歩であり、柳井町の意見交換会がひとつのきっかけになってくれたらうれしいです。

当日の様子

記入日　　年　月　日

１、　あなたについて

Ｑ１　性別（　男・　女　）

Ｑ２　年齢

（～10 代　20 代　30 代　40 代　50 代　60 代～）

Ｑ３　職業

（学生・ＯＬ・会社員・自営業・主婦

フリーター　その他《　　》）

２、　いまあなたが最も関心のあるものを①～⑩の番号の中から上位三つ選んでください。

例　（②）（⑦）（⑧）

（　　）（　　）（　　）

①税制改革　②社会保障（年金・介護・医療）　③教育　④高速道路　⑤環境問題　⑥雇用　⑦農業　⑧ものづくり　⑨地域の問題　⑩景気

３、　２番で選んだ三つの内、一番関心あるものを１つだけ選んで、取り組んで欲しいことを簡単に記入して下さい。

一番関心のあるもの　（　　）

アンケートのご協力ありがとうございました。